
世界の命運なんて知るか！ww

多重人格少女

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の命運なんて知るか！ww

【Nコード】

N6916S

【作者名】

多重人格少女

【あらすじ】

人生がイヤになって自殺しました。なのにココ、何処？
しかも世界を救えって何？

鬱な僕と「みんな」で送るちょっと鬱で可笑しなふぁんたじーだよ
(多分)

あっそうそう、コレは管理人の処女作だから、一話一話がめちゃくちゃ短いからね

運命のいたずら

世界は平和だ

何も狂ってない

僕がいること以外は

みんなみんな平和

僕がいるから

世界はまだ平和じゃない

みんな僕のせいで

怒って僕を殴る

僕はいらない子だ

「みんな」には悪いかもしれない

僕が死ねば「みんな」は歪むかもしれない

けど、僕は疲れちゃった

だから、僕は、死

の

う

うん、僕そう言っただけだ。

でもなんで生きてるの？

他の子を巻き込んだから？

「あたりまえだああああ！！」

…どちら様？

うーん声の主は見当らないな

それよりもココ、何処？

広々い草原が広がってるね

運命のいたずら

はぐれもの

前回までのあらすじ：変なときた

まずは搜索して見るのが一番だよ。

歪んでない世界って久しぶりに見たな。

「みんな」にも見せたかったな。

そんな下らないことを考えてたら

「勇者様！」

えー、僕美女に捕まりました。（キレイだな）
というか「勇者様」って僕？

「…どちら様ですかあ」

「はい！私はアイラです！勇者様を迎えにきました！」
えっ、僕が勇者？あり得ないあり得ない。

こっぴどくいうのは「みんな」の方が向いてるよ。

…そう言えば「みんな」は？

僕だけ放置プレイ？

「ハルヤ」は何処？

「ニーナ」は何処？

「羅伊亜」は何処？

「みんな」は何処？

何処？何処？何処？

僕はひとりぼっち？

はぐれもの

姿異常警報

「ハルヤ」は見た目はイケメンだけど気の強いツツコミ体質だったな。だけど誰よりも運動神経は良かった。ここにいれば、格闘家とかだったんだろうな。

「ニーナ」は濡れたような黒髪に黒曜石のように黒い目という、ハイパー才色兼備ガールだったな。だけどもちやくちゃ腹黒かったな。ここにいれば、陰の参謀にピッタリだったんだろうな。

「羅伊亜」は生まれ持った茶髪にハイパー童顔で、琥珀色の目をした幼女だったな。ここにいれば……

ダメだ。僕はひとりぼっちになるとダメダメだな。

でも僕一人でこの場所の情報、聞けたよ。

まずここは僕たちのいた世界じゃない。いわゆる異世界にきちちゃったみたい。…死んだ影響で。

そして「何故僕が選ばれたか」をアイラ（言葉の響きがなんか「羅伊亜」に似てるかも。）に聞いてみたら

「異世界から来た勇者様は全員茶髪にハイパー童顔で、琥珀色の目をした人々だからです」と答えた。

（この世界では茶髪と琥珀色の目を持った子供は絶対に生まれないとのことだよ）

あれ、それって「羅伊亜」みたいな見た目じゃないと勇者じゃないんだよね？僕まさか今「羅伊亜」の姿？死ぬ前の僕の姿は黒髪黒目の一般人レベルの姿なのに。おかしいな。

「羅伊亜」

うーん、まさか「羅伊亜」の姿になってるとは。ぼくの今の見た目は茶髪にハイパー童顔で、琥珀色の目をした幼女である。

…正直「羅伊亜」は苦手かも。可愛らしい見た目のに腐女子であり、感情が欠如していて、僕より5年も早く産まれて（僕は2番目に産まれた）、そして…僕らの中で1番最初に歪んで、僕を1番最初に歪ませた人。

「羅伊亜」は小学生の頃から歪んだ。よく変な方向を向いては「助けて」といつてたり、彼女についていくのはとても大変だった。「ハルヤ」や「ニーナ」も結構振り回されてた。

彼女が自殺の方法をたくさん調べたおかげで、巻き込まれた僕らは全員自殺に詳しくなった。（小学生にしては恐ろしかった）

彼女の長所を上げるとしたら、歌がめっちゃくちゃうまいことと、半端ない想像（妄想）力とかだと思う。

…「羅伊亜」元氣かな。

「羅伊亜」

めちゃくちゃ近いです、アイラさん。

「どうしました？勇者様。」

あー、考え事に夢中になってたや〜。

「どうもしないですよ〜。」

ちなみに僕はアイラさんに拉致られて、馬車の中だったりなう〜。
というか、めちゃくちゃ近いです、アイラさん。息がかかりそうです、アイラさん。僕、耐えられるか心配です、アイラさん。

改めてアイラさんを見ると、「羅伊亜」とはまさに真逆だよネ〜。名前はそっくりなのに〜。性格も容姿も。

積極的な性格に官能的（って表現するのが1番だよネ〜）な身体つきに、エロい顔。

…あ〜、ムラムラ…やばいやばい。僕はエロい子じゃなくて、どちらかといえば健全な方だよ〜（笑）。

アイアム健全くん！…歪んでるけどね！

「勇者様、お城につきましたのでお召し物の準備を。」

早っ！（乗車期間15分）…ってあれ？とんでもない単語が聞こえたような〜。

椅子の後ろからヲタグッズがみえてる

…頑張つて着替えました、僕です。なんで「羅伊亜」の姿のままでは着替えなきゃいけないかつたんだろ。

このことがバレたら、間違いなく彼女の妄想の餌食になる！…あゝ、それだけは避けたいな。

まあ、何とか王城につきました。

というか、なんで王城に入るだけで特殊な格好しなきゃいけないんだろー。何時の間にかアイラさんも着替えてるし。

まあ、服はとても可愛いよね。ただ…

これ完全に某「ネギが標準装備の歌姫」の服じゃん。あつ、ネギもちゃんとついてたよ。あれ？王様まさか…？

「私はこの城の主であり、この国の王であるビーンじゃ。」

この人が王様か…。…あつ、椅子の後ろからヲタグッズが見えるやゝ。もうダメじゃん。みつくみくにされてんじゃん。

よく選挙で落とさ「どうかなされましたか？勇者様。」

あゝ、話よく聞いてなかったやゝ。ここから先は真面目に聞こうかな。

「今から約10年前、隣の国の凡ミスで魔王が復活してしまったのじゃ。」

凡ミスで復活できたって結構すごいよね。魔王に拍手。

「そこで我が国は兵士を育てると同時に、勇者を魔方阵で召喚してるのじゃ。」

そこで1つ疑問が完成しました。

「何で異世界から勇者を召喚するんですか？」

「…この世界では茶髪にハイパー童顔で、琥珀色の目をした子供は絶対に生まれないんじゃ。じゃが茶髪にハイパー童顔で、琥珀色の目をした人物は魔王を倒す属性「ロリ属性」を持っているんじゃ。」
魔王にロリコン疑惑が出ちゃったや。」

「そしてソナタは第1052代目の勇者に任命されたのじゃ。」

ちよつと待つてよ。第1052代目つてどうゆうこと？僕の前にも（ロリ属性）勇者が1051人もいたの？

《ぼくは なかまを はっけんした！》

…何処にいるか知らないけどね。」

「そついえばソナタの名前はなんじゃ？」

あつ、考え事してる場合じゃないや。王様の質問に答えないとね。」。

「僕の名前は《ミサト》です。」

椅子の後ろからヲタグッズがみえてる

伝統が簡単にぶち壊された瞬間

「ではミサトよ、魔王を倒しに行くのじゃ！」

あれ？僕なんの装備ももらってないんだけど。某「そんな装備で大丈夫か？」な天使や、「大丈夫だ、問題ない」な人も真っ青な展開だよな。

「僕に装備とかはありますか？」

「よしアイラ、例の物を持ってくるのじゃ」

「わかりました。」

10秒後

「お待たせしました。例の物です！」

わー、めちゃくちゃ早い！

アイラさんが持ってきたのは栗色の箱。

さあ、中身はなんだろう？多分装備とかだと思っけど。

パカリ

「
…」

さあ、中から出てきたのは何でしょうか？

3

2

1

正解は…

「えーと鎧や兜、剣や盾はわかりますよ。何故に…みんなピンク？」

そう、中に入ってたのは全てがピンク色の装備でした。正解者に拍手。

「王様、教えてください。」

「ピンク色はロリ属性を強めるらしいのじゃ。そこで代々伝わる最強の装備をピンク色のペンキに漬け込んでピンク色にすれば、かなりの強化を望めると見込んだのじゃ。」

それだけでこの装備たちはピンクにされてしまったのか。ご先祖様可愛そ。

「早速じゃが隣の国へ行つて、強化ついでに仲間を増やしてくるのじゃ。」

えー、さつそく旅立つの？というか、お金とか魔法はどうするの？このさい全部聞いちゃおう

「この世界にお金とかないんですか？」

「ちゃんとあるんじゃ。単位はマルじゃ。相場としては…600マルでラーメンが1杯食べられるくらいじゃ。」

じゃあ円とマルはほとんど同じ為替って事か。

「じゃあ魔法とかは？」

「魔法は生まれつき《魔法属性》を持ってないと使えないんじゃ。じゃが《ロリ属性》は《魔法属性》の亜種じゃから、一部の魔法なら使えると思うのじゃ。」

「じゃあ、疑問が解決したので行つていいですか？」

「大丈夫じゃ、問題ない。」

「じゃ、隣の国へ行つてきまゝす」

こうして僕の冒険は始まったのでした。

伝統が簡単にぶち壊された瞬間

世界の地形と国の関係とドーナツ

「アイラさ〜ん。そういえばこの世界の地理と地形はどうなっているのですか〜？」

「簡単に言いますと…ドーナツ状の地形ですね。そして中央の穴の何処かに魔王の住む島があると言い伝えられていますが中央の海は「ダークシー」と呼ばれ、わかってない事がほとんどです。ついでに言いますと、この世界に『国』は4つしか存在しません。」

「えっ、国が4つしかないんですか〜？」

「はい。配置は西に私たちの出発した「ニシノクニ」、北に隣の国で私たちの向かっているの「キタノクニ」、東に「ヒガシノクニ」、南に「ミナミノクニ」があります。ミナミノクニにこの世界唯一の港がありますが、ニシノクニとミナミノクニの間には世界一高い「テーペン山」を含む「ナントウ山脈」があり、その地帯を生きて越えられた人は0です。なので今回は遠回りですがキタノクニからヒガシノクニへ行き、ミナミノクニへいくルートで行きます。」

「えーと、どの位かかりますか〜？ミナミノクニの港へいくのは〜。」

「味方のスカウトや休憩なども含めると、大体1年ぐらいです。」

え〜、1年も旅するのか〜。キツそ〜。頑張れ僕〜ww。

時を同じくしてキタノクニ…

「嫌。絶対にヤダ。ダルい。興味ない。勝手に他人を巻き込まないで。」

「羅伊亜様〜！早くしないと僕が王様に殺されちゃう〜よし、行こう。」

「

「早っ!？」

「私は君みたいなシヨタ属性を殺したくないだけ。シヨタは世界の宝物だから。」

（この人やっぱり僕が絡むとやる気を出すな。なんでだろう？）

シヨタコン×シヨタはめぢゃくぢゃ危険（前書き）

今回はちよいとエロい表現が含まれてます。 気をつけてください。

シヨタコン×シヨタはめちゃうちゃ危険

正直、いつも一緒にいたけど「ミサト」にも「ニーナ」にも「ハルヤ」にも興味がない。

「つか全ての事に興味なし。（一部除く）それがウチ、「羅伊亜」の性格だったりする。

どうしてこんな性格なのかを考えるのもだるいしめんどくさいし興味ない。

ちなみに前に一度、3人が私の性格についてこんな考察をしていた。「ミサト」いわく、「羅伊亜は多分世界で一番のめんどくさがりやだね」

「ニーナ」いわく、「興味対象を全て削がれたからとかかしら？」

「ハルヤ」いわく、「俺は探究心が完全に壊されてるからとかだと思っけど？」

人間らしい感情をすべてなくしてから5年。

ウチはまさかの…

トリップをしてしまった。

ついでに隣には可愛らしい少年がいた。年は大体8歳ぐらいだと思う。

可愛い！~~~~~〇~~~~~〇~~~~~♪

抱きつきたいよ！もふもふしたいよ！スリスリしたいよ！ぺロぺロしたいよ！キスしたいよ！ファーストキス奪わせて！口内に舌をい

れさせて！ぐしゃぐしゃにさせて！初めて奪わせて！もうこの際結婚して！

まあ、ようはウチは、シヨタコン。これに関しては感情を失ってない。

そんな事を考えてたら

「大丈夫ですか勇者様！？」

少年に「大丈夫ですか」と呼ばれた瞬間ウチは発狂しかけた。
だけど

「勇者様」って？

シヨタコン×シヨタはめちやくちや危険

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6916s/>

世界の命運なんて知るか！ww

2011年10月9日00時07分発行